

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 11 月 4 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170900274		
法人名	有限会社 ハートフル 拓愛		
事業所名	グループホーム 武芸川 あかね		
所在地	岐阜県関市武芸川町八幡字白山 3 3 1-1 (電話) 0575-45-0150		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年10月26日	評価確定日	平成19年12月11日

【情報提供票より】 (平成 19 年 10 月 1 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	4.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,800 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (105,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,260 円	

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 10 月 1 日 現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護 1	名	要介護 2		3 名	
要介護 3	2 名	要介護 4		2 名	
要介護 5	1 名	要支援 2		名	
年齢	平均 84.8 歳	最低 79 歳	最高	89 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	乾医院
---------	-----

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周辺には古い神社や古墳が点在し、目の前は田園が広がり、隣に山の森がせまり、自然に溶け込んだ民家風のグループホームである。室内は木がふんだんに使用され、リビングにはとても太い大黒柱があり、職員や利用者を温かく見守っている。職員がお互いを尊重し、敬い思いやる雰囲気の中、日常は利用者の思いに寄り添いながら、安心と満足が得られるように、食事や入浴を大切にしている。特に寝る前の浴風風呂は、心が安定するケアになっている。また、家族会も組織されて、ホームにとっての大切な応援者である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回評価の改善課題は自治会加入、外出支援、ヒヤリハットの記録、職員の増員、地域交流促進、地域での認知症講座等の開催であったが、経営者や職員間の努力で、順次計画して改善している。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	職員全員に配布して職員会議で1ヶ月に1項目取り上げて取り組み、問題意識を持ち、1ヶ月後に再度どうであったか話し合い、ケアに活かし、サービスの向上につなげてきた。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	隔月に開催され、同日に家族会も開かれ、家族や職員にも内容が報告されている。参加者は自治会役員、民生委員、家族会の会長・副会長、市関係者、ホーム経営者・管理者であり、ホームの行事や市の報告、家族会の意見などをテーマにし、地域への協力依頼など働きかけている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	2ヶ月に1回の家族会を活用して意見交換をしたり、面会時に家族から意見や要望を聞き、運営推進会議の議題としたり、職員会議に話し合ったりして運営に反映し、改善に役立っている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	介護度が重く、地域に独自性があり、日常生活での交流が課題であるが、職員は地元の人が多く、祭りや花見、紅葉狩りなどを計画している。家族会の協力を得て、ホームの行事が地域との交流の場となっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念を廊下の壁に掲示して、誰もが見やすく、利用者中心のケアに活かしている。	○	地域密着型サービスとしての内容を取り入れた理念の追加に期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	5項目の理念が「尽すー奉仕の心」「心ー受け止める心(受容)」「協調ー同じ場所で暮らす姿」「精神」「共生ー共に生きる」と廊下にわかりやすく掲示されて、理念の実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入を希望しているが、まだ受け入れはされていない。運営推進会議や民生委員にも働きかけて地域活動の協力依頼をし、努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に配布して職員会議で取り組み、1ヶ月1項目を決めて、その項目に問題意識を持ち、1ヶ月後再度課題として検討し、ケアに活かしてサービスの向上につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回、家族会と同じ日に開催されている。運営推進会議では家族会の意見や要望、ホームの活動内容、外部評価の改善項目など話し合い、意見交換をし、サービスの向上に繋げている		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者も出席して、介護情報の提供がされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会が組織されて、ホームの応援隊になっている。家族の面会時や、2ヶ月に1回の家族会の場で報告や意見交換をしている。面会に来られない方には電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で常に問いかけ、意見や苦情などホームに期待したことを出してもらっている。玄関に苦情箱や苦情相談のポスターが掲示してある。	○	重要事項説明書・契約書・運営規定にも苦情相談窓口などを記載されることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動に際しては、家族会に報告して理解を得る努力をし、離職がやむを得ない場合は、職員の引き継ぎの際には、馴染みの職員が新しい職員をサポートしながら、利用者の不安に配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修には勤務時間を調整して参加しやすい体制がつけられている。	○	諸会議録や伝達ノート、ヒヤリハットなど全職員が閲覧し、周知したことが分かるようにし、ヒヤリハット等からケアの改善につなげるなど、職員の質の向上をめざす取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会で同業者と交流したり、福祉施設に関する人の経験談を聞く勉強会などに参加し、ケアに活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望家族の介護苦勞をゆっくり聞いたり、利用希望者の思いをケアマネジャーから聞き、見学に来てもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀樂を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食欲のない時に作る料理の調理方法を教えてもらい、その調理と一緒に作って食べたこともあった。また、昔の料理法や地域の行事などを職員は利用者から教えてもらうことが多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思いや意向を全職員が把握するように日常生活の経過記録が細かく記載され、日々努力している。また、利用者会議を時々開催して意見交換をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	1ヶ月に1回の職員会議で利用者1人1人を取り上げて意見交換をしている。家族の面会時に話を聞いたり、利用者や家族との日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、職員全員で介護計画に取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化や職員の気付きは個々の介護記録に記載され、情報の共有化に努め、そのつど介護計画を見直し、変更し、職員会議で報告し、話し合いケアの統一をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	第三者による身元引受人を利用したり、成年後見制度の活用を検討している。病院受診の送迎を家族に代わって支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望するかかりつけ医に通院している。また、協力医療機関の医師の往診が1ヶ月に2回あり、歯科医師との契約もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	経営者や管理者を含めて重度化した時の対応や終末期に向けた方針が共有され、家族への伝達方法も検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	浴室・トイレには、それぞれ分かりやすい暖簾が掛けてある。移動時や排せつ誘導時には一人ひとりの耳元でゆっくり声掛けをする場面が見られた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内でそれぞれの好きな居場所があり、ゆったり過ごしている。利用者同士が昔話で盛り上がり、好きなテレビ番組を見たりしてゆったり過ごしている。食事に掛かる時間も利用者のペースを尊重している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりにお盆が用意され、季節の食材を使用して料理をし、利用者の目線で利用者のペースでゆっくりと利用者も職員も一緒にテーブルを囲み、職員も食事をしながらの食事介助で、家庭の原点のような感じの良い、なごやかな食事風景であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴する順番も毎回交替し、だれでもが一目でわかるように木札を利用して入浴を楽しんでいる。総檜風呂で浴室独特のにおいはなく木の香りのみ。夕食後の夜間入浴が行われ、利用者の習慣に合わせて、工夫をして支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	在宅では日常生活ができなかった一人暮らしの利用者がホームに入り、家族の協力を得てエプロンを用意してもらい、調理や配膳など役割や楽しみを見つける事で、来所時とは比較にならないほどの生きる力がつき、介護度が良くなる事例があった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の意欲や天候に合わせて、日常的に散歩コースに出掛けたり、室内で軽運動をしたりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもとに年に2回の避難訓練は行っている。緊急連絡網が作成され事務所内の壁に掲示してある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況は把握・管理され、カロリー計算や献立の栄養バランスも本を参考に研究や工夫がしてある。献立をたてる時も利用者の希望を取り込み、食形態も食べ安く細かくするなど工夫してある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには利用者の生きるエネルギーにつながっている太い大黒柱がドーンと支えている。広い大きな窓から四季の風景を眺めることができ、各自の存在場所がある。リビングには、テーブルタイプのコタツが用意され、回転式の安定した椅子と小柄な人には専用の足台が用意してある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	床は畳敷きで介護ベッドが置かれている。夜間は居室にポータブルトイレが置かれ使用しているが全く尿臭はなく、清潔に保持されている。各入口には個性のある暖簾、四角形の板に氏名と写真がつけられてわかりやすく表示してあり、木のぬくもりを生かしてある。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。